

RSウイルス感染症 予防接種予診票 (妊婦用)

ダウンロード版

対象者：妊娠 28 週 0 日～ 36 週 6 日の妊婦

習志野市	受診日	西暦	年	月	日	診察前の体温	度	分		
住民登録のある住所	習志野市									
予防接種番号 ※接種前に市役所へ 問い合わせ						電話番号				
ふりがな						生年月日	西暦	年	月	日生
受ける人の氏名							(満		歳)	

※太い線で囲まれたところを記入するか○で囲んでください。

質問事項	回答欄		医師記入欄
RSウイルス感染症の予防接種を受けたことがありますか。	はい	いいえ	
ある場合、それは今回の妊娠中ですか。	はい	いいえ	
今日の予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか。	いいえ	はい	
今日の予防接種の効果や副反応などについて理解しましたか。	いいえ	はい	
現在、何か病気にかかっていますか。 病名()	はい	いいえ	
治療(投薬など)を受けていますか。	はい	いいえ	
その病気の主治医には、今日の予防接種を受けてもよいと言われましたか。	いいえ	はい	
免疫不全と診断されたことがありますか。	はい	いいえ	
今日、体に具合の悪いところがありますか。 具合の悪い症状を書いてください。()	はい	いいえ	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことがありますか。 予防接種の種類()	はい	いいえ	
ひきつけ(けいれん)を起こしたことがありますか。	はい	いいえ	
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか。	はい	いいえ	
1か月以内に予防接種を受けましたか。 予防接種の種類()	はい	いいえ	
心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患などの慢性疾患にかかったことがありますか。 病名()	はい	いいえ	
その病気を診てもらっている医師に、今日の予防接種を受けてよいと言われましたか。	いいえ	はい	
最近1か月以内に熱が出たり、病気にかかったりしましたか。 病名()	はい	いいえ	
今日は妊娠28週0日目から36週6日目までの間であり、出産予定日は今日から15日以上過ぎた日ですか。 妊娠週数(週 日) 出産予定日(年 月 日)	いいえ	はい	
今まで妊娠高血圧症候群と診断されたことがある、あるいは、妊娠高血圧症候群を発症するリスクが高いと言われたことはありますか。	はい	いいえ	
妊婦健診を受けた際の医師に、RSウイルス感染症の予防接種を控えるように言われましたか。	はい	いいえ	
今日の予防接種について質問がありますか。	はい	いいえ	

医師記入欄

以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は【実施できる・見合わせたほうがよい】と判断します。
見合わせた場合の理由()
本人に対して、予防接種の効果、副反応及び予防接種健康被害救済制度について、説明をしました。

医師の自筆署名又は記名押印

医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、重篤な副反応発症の可能性及び予防接種救済制度などについて理解した上で、接種することに
【同意します ・ 同意しません】 ※カッコの中のどちらかを○で囲んでください。

この予診票は、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本予診票が習志野市に提出されることに同意します。

被接種者自筆署名

RSウイルス 使用ワクチン	接種量	実施場所・医師名・接種年月日
ワクチン名： Lot No.： 有効期限： 年 月 日	筋肉内注射 0.5 mL	実施場所： 医師名： 接種年月日： 西暦 年 月 日

転出した場合は使用できません

決められた回数・接種間隔・対象以外の予防接種は有料です

RS ウイルス感染症の予防接種を受ける方へ：必ずお読みください

1. RS ウイルス感染症とは

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。

2. 母子免疫ワクチンとは

妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

※生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。

3. 接種の際、注意すること

接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。

接種に注意が必要な方	理由
<ul style="list-style-type: none">● 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方● 今までに妊娠高血圧症候群と診断された方	接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告があるため
<ul style="list-style-type: none">● 血小板減少症や凝固障害を有する方● 抗凝固療法を実施されている方	筋肉内に接種をするため

その他、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方、けいれんを起こしたことがある方、免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、このワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方等も、注意が必要です。

接種できない方
<ul style="list-style-type: none">● 明らかな発熱を呈している方● このワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方● 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方

4. ワクチンの安全性（接種後気になる症状を認めたら、接種した医療機関へお問い合わせください）

接種後に、主な副反応として疼痛、頭痛、筋肉痛などがみられることがあります。10%未満の割合で紅斑、腫れがみられ、頻度は不明ですが、発疹、蕁麻疹、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。

また、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、リスクが増加したという報告があるものの、交絡因子（結果に影響する別の要因）等の影響の可能性があることから解釈に注意が必要であるとされています。

5. 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が必要と認めた場合は、同時接種が可能です。ただし、海外の知見で、百日咳菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で、百日咳菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があり、接種間隔等については医師とご相談ください。

6. 予防接種健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、健康被害（病気になったり障がいが残ったりすること）が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。接種を受けたご本人及び出生した児が対象です。

※制度利用の必要が生じた場合には、健康支援課へご相談ください。